

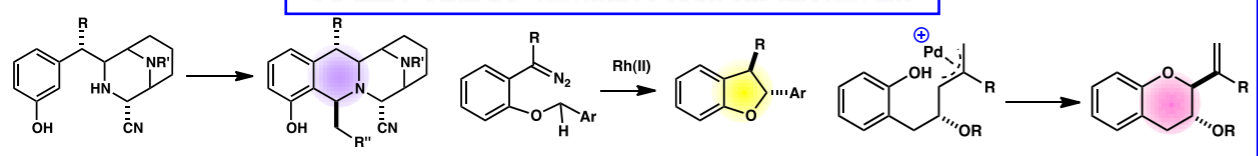
多彩な化合物合成を基盤とする創薬支援研究

[技術の概要]

有機合成化学-合理的な設計・自在な合成-

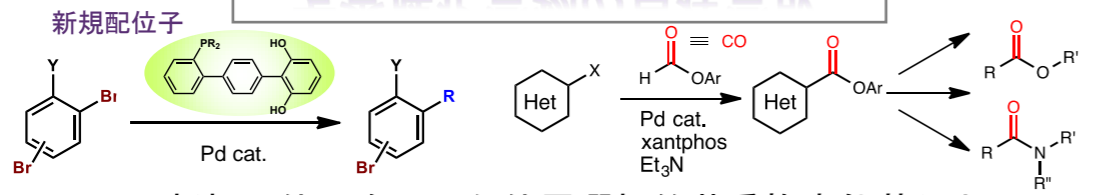


ヘテロ環化合物の効率的合成



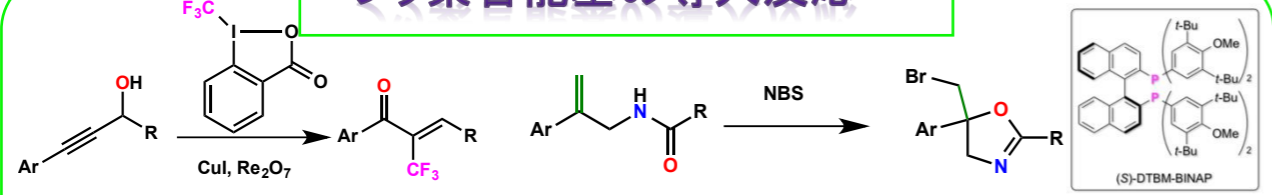
“柔軟さ”（誘導体合成）と“堅実さ”（大量合成）を兼ね備えた独自の骨格構築法を用いる合成法の開発

芳香族化合物の自在合成



新規配位子を用いた位置選択的芳香族官能基化とガス（一酸化炭素等）等価体を用いる安全・簡便カルボニル化反応

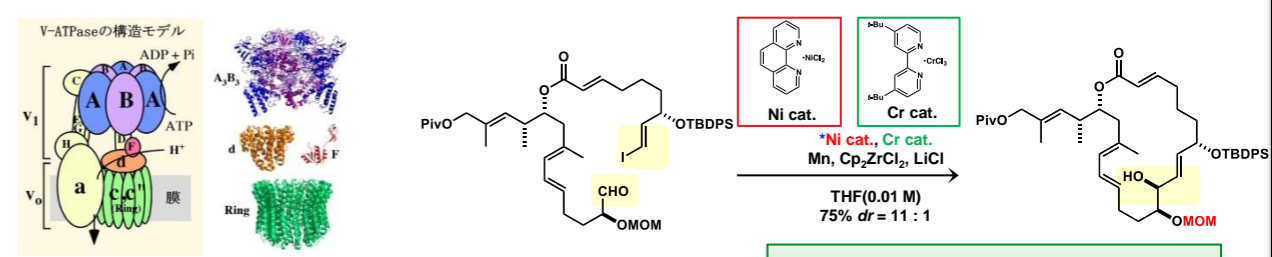
フッ素官能基の導入反応



官能基許容性の高いトリフルオロメチル化反応とエナンチオ選択的な新規ハロゲン導入反応

[技術の利用例]

V-ATPaseの構造及び機能の解明 マクロラクトン構築を基盤とする誘導体合成

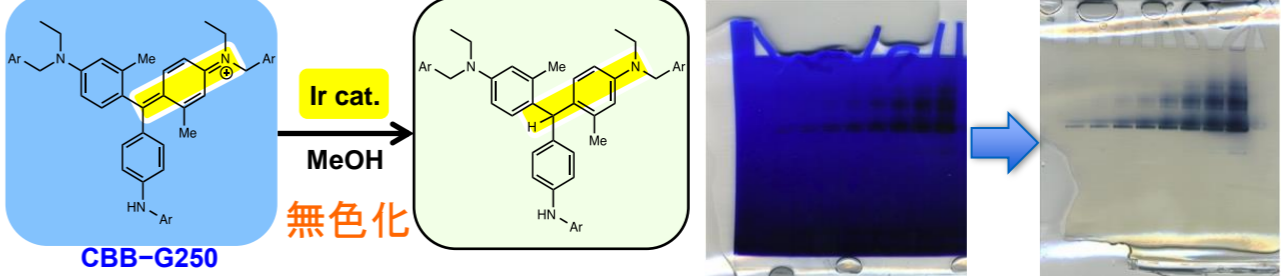


阻害剤の誘導体合成

膜タンパク質の構造解明

骨粗鬆症治療薬の探索

改変CBBを用いた新規Clear Native電気泳動法



新規泳動補助剤の効率的合成法開発

より鮮明に！

連絡先

[所属] 静岡県立大学薬学部

[名前] 菅 敏幸

[E-mail] kant@u-shizuoka-ken.ac.jp